

ドイツ連邦食料・農業省 農林漁業最新情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 38
2020・1・20

1 ベルリン国際農業大臣会議の最終声明に合意（2020・1・18）

世界食料・農業フォーラム（GFFA）に併催された、71 カ国の第 12 回世界農業大臣会議が、今日意欲的な最終声明に合意した。連邦食料・農業大臣クレックナーは述べた：“国際的な貿易は、飢餓と闘いそして資源を大切に、かつ安定と平和のために決定的に貢献する。”貿易なしでは世界食料の確保は不可能である。なぜならば、この声明に合意した国々は、自国のみでは食料の確保が難しいからである。

クレックナーが補足した：“我々はこの貿易を強化することに、成功しなければならない。農業の特別な関心事を配慮することに、共同で力を尽くす。農業者は、この貿易の勝者でなければならない。勿論、小規模農業者も。それに加えて透明性と公正さが必要である。”大臣は続けた：“我々はほんの少しの人だけでなく全てが利益を得ること、同時に食料への全てのアクセスを維持する。

グローバルな貿易は、グローバルな規則と信頼でき、価値に基礎をおいた基準を必要とする”と、食料と農業のグローバルフォーラムへの視点でもって彼女が述べた。”我々は GFFA において、このことについて意見交換を行った。”このように世界中の多くの国から農業大臣が、集まるのはどこにもない。これはまたとない共通の基盤である。

連邦大臣クレックナーは、2020 年 1 月 18 日に世界中から参加した同僚大臣、並びに 12 の国際組織の代表者を歓迎した。そして今日、共同声明が決議された。この決議は、カザフスタンの副大臣 Aidarbek Saparov、次の WTO-大臣会議のホストとしての WTO 事務総長代行 ALan Wolff、FAO 事務局長 屈冬玉（中国）に手渡した。クレックナー：“我々の今日の決定は、調整可能な自由貿易のためのより強いシグナルである。例えば、環境保護または食料の安全に対して、不安を生じさせないことである。市場を歪める農業補助金のさらなる削減を進めるために、WTO の強化は不可欠である。”

最終声明は意欲的な目的を呼びかける

最終声明において、特に以下の目的に合意した。

- ◎ グローバル市場のためのグローバルな規則、WTO の強化、市場開放のための貢献としての双方向的自由貿易の合意。
- ◎ 地域の振興とグローバルな価値創造チェーンを促進し農業貿易の奨励、その際裕福さの獲得は全ての国々と全ての社会的階層に役立つこと。

- ◎ 技術的そして組織的な革新の奨励、例えばデジタル化の分野において効率性を高め、そして農業—食料経済を農業者の新しい世代のためにも魅力的にすること。
- ◎ 小規模農業者は、小規模な貸付金によって支援されるべきである。特に協同組織の奨励によって、市場においてより強く結びつけられるべきである。

- ◎ 女性は多くの家族の貧困と効果的に闘うために、より多くの権利と市場への容易なアクセスを保持すること。
- ◎ 環境政策、国際的な気象協定の保持を断念しないこと。
- ◎ 持続的な農業のためのグローバル規準を導入すること。

国際デジタル協議会の設立

前に進むための重要な歩みは、世界農業大臣会議にの中でデジタル化の分野において達成された。このテーマに関しては、昨年大臣が議論しそして FAO が、国際デジタル化協議会設立のための構想を提示した。このことは 2020 年会議に際して議論し、そして支持された。デジタル化協議会は、デジタル化の問題について各国に助言し、そして考え方と経験の交流を促進する。

クレックナー大臣が述べた：“国際デジタル化協議会設立のための決定は、重要な 1 つの礎石である。世界的なデジタル化は、可能性を提供する。つまり、収益の確保と資源の保護を結びつけ、そして農村地域を強化し同時に、移民発生に係る逃亡原因とも闘う。我々はこの協議会とともに、いわゆるデジタル化の「隙間」を埋め、そしてデジタル化テクノロジーへのアクセスを改善する。一小規模農家の家族のために全世界もまた。”

国境を越えた共同活動

ベルリン農業大臣会議は、GFFA の政治的なハイライトである。GFFA には、政治、経済そして市民団体からの代表者 2 000 人が参集した。

この世界的な農業・食料の将来課題に対する国際会議で情報交流を行った。連邦食料・農業省政務次官ファライヤーが1月16日の会議を主宰した。タイトル”全てのための食料！”のもとに、”安全かつ多面的なそして持続的な食料のための貿易を”

GFFAの専門イベントについて、世界食料の確保と適切な食料に対する、人権実現のために貿易の役割が問題である。

世界的にリードする会議

GFFAは、農業・食料業の中心的な将来課題のための、世界をリードする国際会議である。これは2009年以来、「国際緑の週間」の始めに食料確保の先導テーマのもとに、ベルリンで開催されている。約70カ国の大臣での農業大臣会議は、政治的ハイライトになっている。BMELによって組織されそして実行されるこのフォーラムは、ベルリン市政府、有限会社ベルリン見本市、GFFAベルリン協会と共同で開催されている。

2 ベルリン世界食料会議：若い農業者が世界食料の未来を —国際青年農業者会議の開催— (2020・1・15)

食料・農業グローバルフォーラム2020(GFFA)の併催行事として、世界の青年農業者が集い、世界食料の未来を語る。連邦食料・農業省(BMEL)政務次官ウヴェ・ファライヤーが、今日(1月15日)15の様々な国からベルリンに集まった若い農業者を歓迎した。

変動する世界人口に対して食料を供給するために、国際農業貿易がどのような可能性をもたらすのか？農業貿易の未来をどのように創り出すのか？若い農業者に国際農業貿易政策は、何を求めるのか？この課題設定は、国際青年農業者フォーラムにおける、集中的な議論のための出発点である。”世界の人口はすごく速く増大している。FAOは2050年までに約100億人に達すると、推測している(訳注・2019年77億人)。そのため、その際世界規模での食料確保が決定的な役割を演ずることから、農産物の国際貿易を強化すること。若い農業者は、明日の食料供給の重要な担い手である。

この青年農業者フォーラムは、彼らが国際レベルで意見を述べる場を提供する”と、政務次官が今日歓迎の挨拶で述べた。農業青年の第4回フォーラムは、食料・農業グローバルフォーラム2020の一部である。モザンビーク、ウガンダ、オーストリア、カンボジアさらにアメリカ、カナダ、オーストラリアなど15カ国からの農業青年が、多様な体験・知識交換を行う。

背景：

第12回世界食料・農業フォーラムは、2020年1月16日から18日まで、タイトル「全ての人のために食料を。安全で多様なそして持続的な食料のための貿易を」のもとに開催される。このイベントのクライマックスは、18日ベルリンで開催される「ベルリン世界農業大臣会議」である。

これは連邦食料・農業大臣クレックナーの主導のもとに、外務省で開かれる。これには約70カ国の農業大臣並びに、10の国際組織の高位代表者の出席が見込まれる。国際通商は安全、健康、多面的そして支払い可能な食料の供給実現の潜在力をもっている。この潜在力を効果的に活用するために、多角的な共同活動において農産物の国際通商のための正しい方向が、設定されねばならない。

GFFAにおけるこのテーマについて、高位の専門家、経済、科学そして民間の代表者が集まる。また、ここには全世界から15カ国の農業青年が、農業フォーラムに参加する。アメリカの大規模家畜経営からアフリカの穀物経営までの代表者が、GFFAの国際的な場で活発に提言することができる。若い農業者はこの体験から自分の農業経営、または国内農業団体での活動に資することができる。農業者の新しい世代の声を、世界の農業大臣会議に紹介することができる。

3 国内バイオ経済戦略を閣議決定 (2020・1・15)

―持続的、循環型指向のより強い経済のために―

連邦大臣クレックナーは、バイオ経済政策に方向転換する。持続的な生活・経済手法は、気象と環境を保護する。そして将来的な豊かさを保証する。そのため、ドイツはバイオ経済の強化を目指している。連邦閣議は、今週水曜日に国内バイオ経済戦略を決定した。連邦政府は、バイオ経済のためのこれまでの活動を取りまとめし、そして更なる組み立てのための方向づけを行った。その際、管轄は連邦食料・農業省 (BMEL) と連邦教育・研究省 (BMBF) である。

連邦食料・農業大臣クレックナー：“バイオ経済の中に未来が組み込まれている。中心的な原料生産として、農業者がこの戦略を支える柱である。なぜならば、我々は多くの化石原料を輸入しなければならない間に、「再生可能なコーナー」を曲がっている。我々の知識、畑にそして森林の中に”と、彼女は強調した。

クレックナー大臣：“ひまわりから製造するタイヤ、麻繊維からの自動車ドア、またはトウモロコシからのゴム長靴。これらは研究の中で実践に近く、可能性をはっきりと示している。我々は今の全体戦略の発展を通じて、そのような計画の実践と普及に際してなお、適切に支援しプロセスと関与する人々を、より良く組合わせたい。”

我々はバイオ経済委員会の中で、バイオ経済の目的対立と範囲に加えて、社会との結びつきのもとに議論したい。再生可能な原料に対する需要の増大が、食料確保を危険に晒す事態は避けねばならない。”

連邦教育・研究省アンヤ カールリエック：“とりわけ気象変動は、我々に新しい考えを取り入れさせる。我々は生活基盤を保持し、そしてその際、経済的により強く維持するために、あらゆることを実行しなければならない。バイオ経済はこの2つのための鍵である。そのため、我々は新しいバイオ経済戦略でもって、なお全ての経済分野においてより多くの生物資源、プロセスそしてシステムを利用する。

その際、この戦略の明確な焦点は持続性である。我々は気象、環境そして生態系システムの負担限度を視野に入れて、目的とする革新を奨励する。持続的な経済は、我々のグローバルな持続性の目的を達成するだけでなく、長期的な将来市場でのトップポジションを確保する。”

国内バイオ経済戦略の中心目標は、持続的な循環を指向し、そして革新を強化したドイツ経済である。この新しい戦略は、次年度におけるバイオ経済の成果ある強化のための骨組みを設定する。将来的な研究奨励の焦点にバイオシステムとその手法の活用、生物学的知見の拡大を据えている。デジタル化と全ての学問による先端技術の結びつきにおいて、持続的な経済の新しい可能性を切り開くべきである。

同時に工業のためにより多くの生物的原料を利用できること。これは化石原料に代替えし、そして新しい持続的な産物を創り出す。生物原料を効率的に入手するために、循環を指向した利用のための新しい構想が重要である。これの自然的な特性に基づいて、特に循環に係るより持続的な原料が適しており、そして原料に対する消費を減らすべきである。

持続的なバイオ経済のために、国際的にも強化することから経済との密接な組合わせと、国を越えた共同を強化すべきである。

同時にバイオ経済が用いられると、特に社会的要求と必要性に対応しなければならぬ。そのため、公的な議論を取り入れそしてあらゆる社会的グループの含まれることが重要である。それ故に、2020年の科学テーマはバイオ経済である。

総合戦略における連邦政府の一連のバイオ経済政策は、これまでの目的と政策をこれまで以上に、強力に相互に組み合わせることに役立つ。国内バイオ経済戦略は、政権連立協約において合意したアジェンダ”生物学から革新へ、いわゆるバイオアジェンダ”の実践のために、重要な役割を果たす。

背景ーバイオ経済とはなに？

バイオ経済は生物的資源、プロセスそしてシステムを活用した、経済形態として定義づけられている。この資源には植物、微生物または菌類、しかし特に生物的関連に係る知見もまた、全部含められる。この基礎の上に様々な経済分野における産物、手法そして技術が開発され投入される。例えば、新しい化学製品、原材料ー建築材料または薬品が生ずる。しばしば、生物に起源する原料が、化学原料に代替えされる。

これは持続的としてみなされる。なぜならば、これは再生可能であり、そして特別な量でもって循環されるからである。昨年においてデジタル化と、特に新しいテクノロジーがさらなる可能性を、そして生物学的システムと人間のために、利用できる手法を創り出す。同時にバイオシステムは、持続的な革新のための手本となる。連邦政府は、広範に及んでいる化石原料に基礎をおいた経済から、循環を指向したそして生物に基礎をおく、2つを密接に組み合わせた戦略でもって転換を支援する。

2013年に出された「国内政策戦略・バイオ経済」でもって、BMELの主導のもとに、戦略上の関心事と政策を定義づける。例えば、大枠条件への適応を通じて、バイオ経済の構造変革を促進させるために。

2010年に決定した「国内研究戦略・バイオ経済2030」は、連邦教育・研究省(BMBF)の所管で実施されている。そして研究とその成果普及による、バイオ経済における革新のために基礎となっている。国は2000以上の研究プロジェクトを通じて、10億ユーロ(約1200億円)でもって奨励している。

4 アフリカ豚コレラ一国境を越えた共同活動を

(2020・1・17)

連邦農業大臣クレックナーは、アフリカ豚コレラ（ASP）のための EU 一委員会の会議に際して述べた：“来週ポーランドの同僚大臣と会合する。”

国際緑の週間に際して連邦食料・農業大臣クレックナーは、今日（1月17日）約 160 人の参加者とともに、EU 一委員会のハイレベル大臣会議に参加した。これには、EU 一委員会と動物の健康世界組織（OIE）の高位代表者も参加した。テーマは、世界規模での貿易における ASP の影響であった。

ASP に対する全般的なリスク管理対策を、講じなければならない。そして OIE 一規範との調和をとりながら。そしてパートナー国は、OIE 一規範との調和のもとに、ASP 一発生の否定的な影響を国際レベルで阻止するために、地域原則を認めるべきである。連邦大臣の挨拶で全ての関係者と密接に、そして国境を越えた共同活動が決定的に重要であると、述べた。”効果的な予防対策も、そして動物感染症の発生したときも。

人間の関わる要素もまた、ASP の拡大に際して大きな役割を演ずる。休暇のお土産としてのサラミソーセージは、ASP をさらに拡大させる恐れがあるので、早急に持ち帰ること。そのことが知識と注意深さが伝染病を防ぎ、そしてドイツへの感染を阻止するための決定的な手段である。そのため、我々は情報キャンペーンを、さらに旅行者、輸送、家畜飼育経営そして狩猟に向けねばならない。

さらに国内と国際的にあらゆるレベルで、集中的な情報交換をする必要がある”と、西ポーランドで発生した ASP への視点でもって大臣が述べた。”ポーランド当局と我々の省との密接な情報交流は、西ポーランドでの発生前から、既に長期間にわたって実施されていた。私は来週ポーランドの同僚大臣と会談する。我々は国境に沿ってとるべき対策について、密接な調整を行う”と、クレックナーが続けた。

2020・1・19 訳

青森中央学院大学

中川 一徹